



内山美穂子 議員
(拓政会)



工事が予定されている札内新道と交差する札内高台線は、江陵高校の生徒の通学路となっている。この道路は、曲がり坂で歩道幅も狭く危険、改善してほしいとの声を聞く。今後、交差点付近の詳細な設計が決まってくるが、通学路となる町道について伺う。

(1)新設高校が始まるまでの通学路の整備計画は。

教育長 (1)江陵高校の生徒が通学に使用している町道札内高台線は、昭和60年の高校移転に伴い、57年度から5か年計画で道路と照明施設が整備された。道路法で定められた構造に準拠して整備され、今後も道路の構造的な再整備を行う計画はないと聞いている。

新たに道道幕別帯広芽室線と交差する計画の影響する範囲については、危険な道路とならぬよう、事業主体の北海道と交差点の形状や勾配、交通安全施設の整備について協議を進めていただくようお願いする。

問 江陵高校の通学路の安全対策に向けた整備計画は

答 札内新道との交差点付近の整備は道に要望し、町も冬期の迅速な除雪体制などの環境を整えていく



江陵高校の通学路（町道札内高台線）

願っている。坂道による自動車の速度抑制やスリップ対策、支障木の剪定や冬期の迅速な除雪などの交通安全対策に加え、生徒が安全に通学できる環境となるよう、今後とも町部局に要望していく。

問 歴史散歩道「黒田温泉跡地」のアカマツの保存は

答 現在地での保存、移植ともに困難

問 清流大橋から幕別本町に抜ける札内新道は、工事着手

に向け準備が進んでいる。予定地の一部には、歌人若山牧水が滞在地に立つ樹齢百年以上のアカマツについては保存を望む声がある。工事は何ら反対するものではないが、歴史的文化遺産として保存することはできないのか、以下について伺う。

(1)町の考えと見通しについて。
(2)「歴史の散歩道」の活用は。
(3)町内の名木の現状と保存価値のあるものについて指定する考えは。

教育長 (1)倒木の危険性が高い木が道路区域内に残ることとなり、現在地での保存は困難。また、樹木の専門家に診断していただいたところ、「移植は、老木であることや地盤の有効土層が薄く満足な根鉢が確保できないこと、さらには、もともと移植は難しい樹種であり、移植によってさらに樹勢が衰える可能性が考えられ、移植は実施すべきではない。」との結果

であり、移植による保存も困難である。

(2)今後も、町民見学会の開催など、郷土の歴史と文化に触れる一助となるよう活用していく。

(3)平成24年度までに町内全ての歴史的、文化的遺産の調査を実施した上で選定しており、それ以外の指定は考えていない。

問 子ども110番の家の活用を

答 学校と地域の関係を深めるコミュニティスクールを推進したい

問 制度の形骸化を防ぎ、地域ぐるみで子供を育む、身近な具体策の一つとして周知を図り、機能を充実させていくことが大切ではないか。

教育長 平成29年11月末現在で、一般住宅133か所、事業所89か所の合計222か所を設置し、地域での子供の安全確保や防犯対策にご協力いただいている。地域で子供を守り育む取組としては、公区の見守り隊や退職校長会の皆さんなどにご協力いただいている。今後は、学校と地域の連携・協働関係をより深めるものにしていく仕組みづくり、いわゆるコミュニティスクールの導入に向けた取組を推進していきたい。